

2023年度 事業報告書

2023年度は、3年にも及んだコロナ禍からの脱却が進み、社会・経済活動が正常化しました。

当財団では、青少年の健全な成長に必要なスポーツや体験学習の機会の回復や、国民の心身の健康悪化など社会的課題の解決に取り組み、コロナ禍で失われた青少年の夢と笑顔を取り戻すべく、スポーツや自然体験を楽しむ機会の創出に力を注ぎました。また、食文化振興事業では、「食」と「ウェルビーイング」の関係性を明らかにする世界初の研究調査「Recipes for Wellbeing Report」を公表しました。食文化、食科学の発展に繋がる事業を推進し、ウェルビーイングな社会の実現に貢献しています。

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念を実現すべく、子どもたちの健全な心身の育成と食文化の発展に貢献する公益事業を実施しましたので、次のとおりご報告いたします。

<公益目的事業>

- (1) 公1. スポーツ支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業

<収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

<公益目的事業>

■公1. スポーツ支援事業

「食とスポーツは健康を支える両輪である」という基本理念のもと、陸上競技やテニス、バスケットボールなど、スポーツを幅広く支援しています。スポーツを通じて、子どもたちの夢を応援し、青少年の健全な心身の育成を図ります。

1. 「第39回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という公益財団法人日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、1985年から全国の小学生を対象とする小学生陸上競技大会を支援しています。

2023年度は、地方大会も含め、約32,000人の選手や関係者が参加し、仲間たちと交流を深めることができました。日産スタジアムで開催された全国大会の表彰式では、4年ぶりに入場行進が復活するとともに、本大会の出場経験者で、東京2020オリンピック競技大会に出場された戸邊直人選手や寺田明日香選手など、憧れのオリンピックがプレSENターを務め、「めざせ、自分新記録」をテーマに思い出に残る大会の創出に努めました。

また、「記録」に対する興味、喜び、自信、目標を感じてほしい、本大会への出場を思い出に刻み、活動のモチベーションや将来への希望を持ってほしいという願いから、「My record」を実施しました。これは、地方大会に出場した全小学生の記録を日本陸上競技連盟のウェブサイトに掲載するものです。順位付けや競争による小学生期の過度なトレーニングや精神的負担の増長を防

ぐため、相対的な順位表にはなりますが「ランキング」とはせず、「My record」としています。

2023年度の新たな試みとして、大会当日（競技会終了後）に指導者交流会を開催しました。指導者同士の交流や、日本陸連の指導者養成の方向性を共有する場として、交流機会が少なかった各都道府県の指導者の交流、情報・意見交換の場を創出し、相互に刺激し合う交流会となりました。

【地方大会】 開催日程：2023年6月～7月 参加者数：約32,000人

【全国大会】 開催日程：2023年9月16日(土)～17日(日) 参加者数：658人

・競技会、フレンドシップパーティなど交流会、指導者研究会、指導者交流会

【事業費】 127,744,929円

2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には、優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、各都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を2015年9月にスタートしました。世界のトップ選手が集うトレーニング環境に飛び込み、現地のコーチに指導を乞い、切磋琢磨しながら、トップアスリートとして求められる資質を育成するもので、国際大会におけるメダリスト誕生をサポートするものです。これまで、延べ73名の若手アスリートを支援しました。

2019年、2020年に本プロジェクトを活用して、チェコで単独武者修行した北口榛花選手が、2023年8月に開催された世界陸上競技選手権ブダペスト大会において、陸上女子フィールド種目における日本人初の金メダルを獲得するなど、大きな成果を上げています。

【2023年度支援対象者】 16名（年間支援者過去最多）

氏名	年齢	種目	2023年度 活動期間	日数	活動拠点
小川 大輝 (東洋大学)	21 男	400mH	7月2日～7月22日	21	オランダ、フランス ベルギー
中島 佑気ジョセフ (東洋大学)	22 男	400m	11月1日～12月23日 1月5日～3月20日	131	アメリカ
樫原 沙紀 (筑波大学)	22 女	1,500m	12月26日～1月23日 3月7日～3月17日	41	アメリカ オーストラリア
金子 魅玖人 (中央大学)	22 男	800m 1,500m	1月2日～2月11日	41	スウェーデン
今泉 堅貴 (筑波大学)	22 男	400m	2月3日～3月12日	39	オーストラリア ニュージーランド
阿部 竜希 (順天堂大学)	20 男	110mH	2月20日～3月24日	34	ニュージーランド オーストラリア
石原 翔太郎 (東海大学)	22 男	長距離	2月1日～3月31日	49	アメリカ
村竹 ラシッド (順天堂大学)	22 男	110mH	2月18日～3月11日	23	オーストラリア
高橋 佑輔 (北海道大学 院)	24 男	1,500m	2月28日～3月12日	14	オーストラリア ニュージーランド
藤原 寛人 (中央大学)	21 男	100m	2月10日～3月10日	30	ニュージーランド

氏名	年齢	種目	2023年度活動期間	日数	活動拠点
鳥海 勇斗 (日本大学)	22 男	走幅跳	1月30日～2月13日	15	ドイツ フランス
西 裕大 (早稲田大学)	23 男	200m	2月4日～2月25日	21	オーストラリア ニュージーランド
清川 裕哉 (東海大学)	20 男	やり投	1月23日～2月23日	32	フィンランド
宇野 勝翔 (順天堂大学)	22 男	200m	2月19日～3月10日	21	オーストラリア
菖蒲 敦司 (早稲田大学)	22 男	3,000m 障害	2月12日～3月4日	22	オーストラリア
ヒリアー 紗璃苗 (青山学院大学)	22 女	800m	2月29日～3月24日	25	オーストラリア

【事業費】 26,383,095円

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

(1) 公益財団法人日本テニス協会主催「安藤財団グローバルチャレンジ Jr.テニス」

公益財団法人日本テニス協会は、世界で活躍できる将来のスーパースター候補の発掘と、早期教育を目的に、47都道府県から11歳の男女1名ずつと、海外選手を全国で開催するキャンプに招聘する「安藤財団グローバルチャレンジ Jr.テニス」を、2023年度からスタートしました。国内トップレベルの選手や海外選手との交流を通し、刺激を受けつつ多様性を養っています。レジェンドコーチによる少人数指導や、「トッププレーヤーが持つマインド」「栄養、睡眠、体力などのコンディショニング」「表現力」などを学ぶ研修会「チャンピオン教育」を開催し、タレント発掘と育成を図ります。

<2023年度実施事業>

キャンプ名	開催場所	日程	選手数
有明キャンプ	有明テニスの森公園	12月22日～24日	31名
松山キャンプ	愛媛総合運動公園	1月6日～8日	18名
江坂キャンプ	江坂テニスセンター	2月10日～12日	25名
有明キャンプ	有明テニスの森公園	3月27日～29日	22名

【事業費】 33,000,000円

(2) 公益財団法人日本バスケットボール協会主催 U18 リーグ戦

U18世代バスケットボール界では、高校での部活動、クラブチームでの活動に区別されており、相互に交流がないことが育成、普及面での課題となっています。

本リーグは部活・クラブなどの垣根を超えたリーグ戦文化の定着と、若年層の育成強化、裾野の開拓を目的に、2022年度新たに創設したもので、高校生世代のチャレンジ精神を沸き立たせ、日本のバスケットボール界の底上げを図るものです。

リーグ戦文化のポイントは、公式戦の試合数が確保され、多くの選手への出場機会を得られることにあります。また、実力が拮抗するチーム同士の対戦となるため、対戦相手を見据

えた戦略の立案や練習などが必要となり、毎日の練習の質が向上します。選手、指導者からは競技力向上に繋がっていることや、審判員、大会運営者の育成にも貢献しているとの評価をいただいています。

2023年度は、実力が拮抗する男女8校によるトップリーグと、昨年の4ブロックに加え、新たに東北、北信越、近畿の3地域を追加した7つのブロックリーグを支援しました。有観客によるリーグ戦開催とし、全国各地で開催されたトップリーグには20,000名余の観戦者がありました。

今年度は、関東ブロックにおいてBリーグユース1チームが参加しました。引き続き、垣根を超えたリーグ戦文化の定着と、将来的には「トップ」「ブロック」に続き、普及を担う「都道府県」リーグを設置など、リーグを活性化させ、競技レベルの強化、底上げにも貢献してまいります。

【参加者数】

区分	リーグ数	チーム数	試合数	選手チームスタッフ	審判・競技運営スタッフ	合計人数	試合数	参加者数
トップ	1	16	56	320名	616名	936名	332	5,832名
ブロック	7	93	276	1,860名	3,036名	4,896名		

*ブロックリーグ開催地域：東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国

【事業費】 264,000,000円

■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「協調性」や「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

1. 「第22回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

子どもたちの創造力やチャレンジ精神を育む、独創性に富んだ自然体験活動を募集し、優れた企画の実施を支援、表彰する「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」は、2002年にスタートしました。2023年度は、190件の応募がありました。コロナ禍からの脱却を進める状況の中、ユニークで創造的なプログラムが数多く、自然への理解を深めるとともに高い教育効果を期待できる活動や、子どもたちが達成感を得られる自然体験活動が特長として挙げられます。その中から、52団体を選考し、実施支援金を贈呈しました。活動に参加した子どもの数は18,000人にのぼります。

さらに、その活動報告書を審査した結果、学校部門では、日本の伝統文化である「たたら製鉄」や「虫送り」の体験を通して、子どもたちが自分たちで課題を見つけ解決策を考える力を育み、地域の歴史やSDGsの重要性について学ぶ活動を行った越前市大虫小学校（福井県）に文部科学大臣賞を贈呈するなど、14団体を表彰しました。

1月27日、安藤百福発明記念館 横浜において表彰式を開催し、表彰団体より活動報告を發表いただくとともに、俳優で、日本トレッキング協会理事でもある市毛 良枝氏をお招きし、「自分らしさを大切に自然との向き合い方」と題した講演会も行いました。

また、表彰団体の活動報告をホームページ「自然体験.com」において広く公開しました。

【後援】 文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

[学校部門]

- ◆ 文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：越前市大虫小学校（福井県）

企画名：滴り落ちる玉の汗を玉鋼に 弾け飛ぶ汗の粒を米の粒に さあ、行こうか、大虫!!

- ◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：延岡市立南浦中学校（宮崎県）

企画名：豊かなふるさと南浦自然物語

[一般部門]

- ◆ 安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：一般社団法人紀の国森社中（和歌山県）

企画名：今、里山学童がおもしろい理由（わけ）そして子どもたちの心の機微

- ◆ 優秀賞（副賞：50万円）

団体名：びわこ成蹊スポーツ大学アウトドアスポーツセンター（滋賀県）

企画名：Outdoorsy Community ～比良人～ ひらんちゅキャンプ 2023

春夏秋冬ひらゴンボールの大冒険

[学校部門・一般部門共通]

- ◆ 推奨モデル特別賞（副賞：各 30万円）

プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画として、計 3 団体に贈呈しました。

- ◆ トム・ソーヤー奨励賞（副賞：各 20万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画として、計 1 団体に贈呈しました。

- ◆ 努力賞（副賞：各 10万円）

学校部門 3 団体、一般部門 3 団体、計 6 団体に努力賞を贈呈しました。

【表彰式】 2024年1月27日(土) 安藤百福発明記念館 横浜

講演会：市毛 良枝 氏（俳優、日本トレッキング協会理事）

テーマ：「自分らしさを大切にした自然との向き合い方」

【事業費】 20,840,072円

2. 安藤百福センター事業

当財団は、2010年5月、安藤百福 生誕 100年の記念事業として、長野県小諸市に、「安藤百福記念アウトドア アクティビティセンター」を設立しました。自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化させる施策の実施座学やフィールドを活用した自然体験講座を開催したほか、自然体験の基本となる「歩く旅」の普及につながる講座のウェイトを高めています。

大都市圏では低山登山が2019年の3倍になるなど、コロナ禍以降、安全・安心が確保でき、心身の健康に良い山歩きへの関心が高まっています。

2022年6月、特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会は、ロングトレイルの普及のため、日本列島を南から北まで一本道でつなぐ全長約1万キロの山旅「JAPAN TRAIL®～Hiking Nippon～」を提唱。「そこに立てば日本が見えてくる」をテーマに、この国の豊かな自然と歴史・文化を再発見できる、新しい歩く旅の道を記者発表しました。この取り組みを通して、①心身の健康と自然環境の保護意識の向上、②子どもたちの好奇心を育む自然体験活動の機会の提供、③地域観光への

再興が期待されるインバウンド需要の対応、④SDGs への関心を高めることなどを図ります。

自然の中を歩くことは、体力、好奇心を育み、環境学習にもつながる青少年教育の有効なツールと考え、当財団は「JAPAN TRAIL®～Hiking Nippon～」提唱を支援しています。

(1) 自然体験活動振興事業

① 人材育成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会主催の危急時対応技術講習会などの安全管理に関する研修会や日本山岳会主催の登山教室指導者養成講習会をはじめ、大学や民間のアウトドア活動団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施

利用団体数：60 団体（1,493 名、延べ 2,369 名）

② 自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施

自然を楽しむ講座や体験、安藤百福センターの野外研修フィールドである浅間・八ヶ岳パノラマトレイルにおいて、以下の講座などを主催

- ・ロングトレイルハイカー入門講座（全 6 回開催・延べ 101 名参加）
- ・大人のトレイル歩き旅講座（全 6 回開催・延べ 109 名参加）
- ・JAPAN TRAIL 体験講習会（浅間山登山道縦走）（1 回 12 名参加）
- ・子どもクライミング教室（全 8 回予定：内 5 回開催・延べ 134 名参加）

(2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩く」ことが基本となります。「アウトドアで歩く文化」の醸成を図り、子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

① 第 1 回 JAPAN TRAIL FORUM 開催支援

開催日：2023 年 11 月 21 日(火) 東京 池袋サンシャインシティ

主 催：特定非営利活動法人日本ロングトレイル協会

参加者：トレイル関係者、国、自治体、メディア、観光事業者等 300 名参加

内 容：ロングトレイルの意義や役割について議論や提案を行うとともに、展示ブースにて全国のトレイル運営団体の活動を紹介

② JAPAN TRAIL 提唱における広報活動支援

③ ロングトレイルの情報収集と発信、全国の運営団体との交流

【事業費】 153,758,578 円

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週 5 日制が施行された 2002 年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。文部科学大臣賞、安藤百福賞など受賞した団体の活動報告の動画を公開し、他団体の参考としています。

【U R L】 <http://www.shizen-taikken.com>

【事業費】 7,806,854 円

■公3. 食文化振興事業

1. 食創会「第28回安藤百福賞」表彰事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、新しい食の創造を推し進め、食品産業の発展に貢献することを目的に創設されました。当財団では、「食創会」を主宰し、「安藤百福賞」の表彰を行っています。

大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学などに所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

2023年度「第28回安藤百福賞」大賞には、医療・創薬分野におけるデータサイエンス研究の第一人者であり、おいしさと健康を両立する新たな「食」によるウェルビーイングを目指す京都大学大学院医学研究科 教授、理化学研究所 計算科学研究センター 部門長の奥野 恭史 氏が受賞されました。奥野氏の研究は、医療、創薬分野で培ってきた最先端技術を食科学に応用することで、ウェルビーイングの創造を目指すもので、時代の要請に応えるものとして高く評価されました。

大賞のほか、優秀賞3件、発明発見奨励賞5件を選考、表彰しました。

【後 援】 文部科学省、農林水産省

【表 彰 者】

● 大賞（副賞：1,000万円）

奥野 恭史 氏 京都大学 大学院医学研究科 教授
理化学研究所 計算科学研究センター 部門長
「AI・データサイエンスによるウェルビーイングの創造」

● 優秀賞（副賞：各200万円）

- ・阿部 知子 氏 理化学研究所 仁科加速器科学研究センター 副センター長
「テラーメイド変異誘発法の開発と食品産業への貢献」
- ・児島 将康 氏 久留米大学 分子生命科学研究所 教授
「生物の食行動を支配するペプチドホルモンの研究」
- ・武見 ゆかり 氏 女子栄養大学 教授、副学長
「日本における栄養学教育の発展と栄養政策への貢献ならびにそれらの国際的発信」

● 発明発見奨励賞（副賞：各100万円）

- ・加納 颯人 氏 株式会社 RelieFood 代表取締役 CEO
「食物アレルギー問題解決に寄与するお菓子ブランドの開発と起業」
- ・Sastia Prama Putri（サスティア プラマ プトリ）氏 大阪大学 大学院工学研究科 准教授
「食品メタボロミクスと栄養疫学の組み合わせによる大豆発酵食品の健康効果の検証」
- ・松村 成暢 氏 大阪公立大学 大学院生活科学研究科 准教授
「油脂を多く含む食品の過食を制御する神経回路と遺伝因子の発見」
- ・元木 康介 氏 東京大学 大学院経済学研究科 講師
「食に関する感性処理の学際的研究」
- ・寄玉 昌宏 氏 株式会社 Sydecas 代表取締役
「蒟蒻であたらしい食のカタチをつくる NinjaFoods 開発と超咀嚼ナッツバー商品化」

【表 彰 式】 2024年3月12日(火) ホテルニューオータニ東京

【特別講演】 石川 善樹 氏 公益財団法人 Well-being for Planet Earth 代表理事

【記念講演】 奥野 恭史 氏 京都大学 大学院医学研究科 教授
理化学研究所 計算科学研究センター 部門長

【事 業 費】 55,902,648円

2. 食科学の進展に寄与する学生への「安藤百福 Scholarship」奨学支援事業

日本国内では、経済的理由で就学が困難な学生を支援するため、さまざまな奨学金制度がありますが、大学院生に特化した奨学金制度は十分ではなく、アルバイトなどで学費や生活費を工面している学生が少なくありません。コロナ禍において、この問題は特に顕著となりました。

当財団は、食科学のイノベーションをコロナ禍で停滞させてはならないとの思いから、日清食品と共同で「日清食品・安藤百福 Scholarship」奨学支援事業を、2021年よりスタートしました。

現在、コロナ禍はほぼ収束の状況となりましたが、地球温暖化、国際紛争、物価高などの問題のほか、健康やウェルビーイングへの関心の高まりなど、食を取り巻く環境はますます多様化しています。財団創設者 安藤百福の掲げた「食創為世」の理念のもと、食のイノベーションを一層推進すべく、2023年度、食科学進展に寄与する大学院生100名に、年額100万円の奨学金を給付し、食文化の向上、振興を担う将来の人材の育成を図りました。

【事業費】 99,600,000円

3. 「食分野における主観的ウェルビーイング指標開発」調査研究事業

「主観的ウェルビーイング」とは、心身の健康と社会的な健康を意味する概念で、満足した生活を送ることができている、持続的に幸福な状態を言います。今、各国政府や国際機関で「ウェルビーイング」を計測するなど政策活用への取組みが加速しています。しかし、食分野における「主観的ウェルビーイング」について基礎となるデータの蓄積が乏しく、革新のための知見が足りない状況です。

当財団は、2021年11月、公益財団法人 Well-being for Planet Earth と連携し、食文化の向上に資する研究や開発につながる「食分野における主観的ウェルビーイング指標開発」調査研究事業を創設しました。食は人間の命・健康を支えるものであることは言うまでもありませんが、食と主観的ウェルビーイングの関係は明らかになっていませんでした。

2022年、世界最大の世論調査を行う米国ギャラップ社に調査を委託し、世界142か国での調査を行いました。国など属性ごとの割合を Food Wellbeing Index として新たに定義し、ギャラップ社がこれまでのさまざまな世論調査より定義したウェルビーイング指数 Life Evaluation Index を掛け合わせ、食とウェルビーイングの相関関係を計測しました。その結果、食への完全満足度は、ウェルビーイングとの相関性が高いと言われる最富裕層と最貧層の差と同レベルであることが判明し、食とウェルビーイングの強い相関関係が、世界で初めて立証されました。

2023年10月には、「食」と「ウェルビーイング」の関係性を明らかにした世界初の研究調査「Recipes for Wellbeing Report」を公表しました。調査収集したデータを広く公開することにより、研究者、開発者、起業家の研究、開発を促進し、食文化や関連政策の向上、人々の健康改善、幸福の享受に貢献してまいります。

【事業費】 94,093,386円

■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なものは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「クリエイティブシンキング＝創造的思考」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与することが、この事業の目的です。

2023年度は、コロナ禍からの脱却が進み、体験学習の機会創出のため学校教育での利用促進が進むとともに、インバウンドによる来館者増が進みました。2023年度来館者数は、池田記念館 69 万人（前年比 158%、2018 年度比 76%）、横浜記念館 104.4 万人（前年度比 148%、2018 年度比 94%）、両館あわせて 173.4 万人と、コロナ禍前と比較し 85%程度の回復となりました。

学校教育や海外インバウンドの更なる利用拡大を図り、発明・発見の大切さを伝え、発明心の涵養を促進いたします。

1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）

池田記念館は、1999 年 11 月、インスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

敷地面積：4,477 m²、延床面積：3,423 m²

【開館年月】 1999 年 11 月 累計来館者数 11,301,000 人

<2023 年度実績>

【開館日数】 283 日 *空調換気設備更新のため 2024 年 1 月臨時休館

【来館者数】 690,000 人

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 48,800 人

マイカップヌードルファクトリー 523,000 食

【学校教育】 865 校 44,300 人

【事業費】 192,190,974 円

2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜記念館）

横浜記念館は、2011 年 9 月、安藤百福の思いを世界に発信しようと、国際都市・横浜みなとみらいに開館しました。

2023 年 7 月、安藤百福発明記念館名誉館長である宇宙飛行士 野口 聡一さんによる、「"夢の実現は夢じゃない" 夢をかなえる魔法のレシピ」というテーマの子ども向けセミナーを開催しました。現地参加と web 配信を含めると 1,000 名以上の子ども達が参加し、大変好評を博しました。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港 2 丁目 3 番 4 号

敷地面積：4,000 m²、延床面積：9,883 m²

【開館年月】 2011 年 9 月 累計来館者数 11,225,000 人

<2023 年度実績>

【開館日数】 308 日

【来館者数】 1,044,000 人

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 49,500 名

マイカップヌードルファクトリー 713,000 食

カップヌードルパーク 69,200 名

ワールド麺ロード 346,000 食

【学校教育】 1,166 校 58,900 人

【事業費】 531,326,838 円

<収益事業等>

■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 9%）

② 横浜記念館 115 m²（館全体の延床面積に占める割合：約 1%）

【事業費】 10,033,260 円

以上